

協働パイロット事業 (H25) 企画提案書

団体名：市民エコワーク

1. 事業の名称

古本リサイクル市

2. 事業方針 (市民ニーズや協働で取り組む意義を踏まえてください)

- 1 古本市場が新古書店中心になり、汚れた本、古い本などは引き取り手がなく、古紙回収に回されたり、ごみとして焼却されたりしている。本の情報資源としての価値を考えれば、非常に「もったいない」状況にある。今までエコワークが開催してきたリサイクル市は常時盛況で、いつも、「もっと頻繁に開催してほしい」という要望が寄せられている。これは、市民の間にこうした需要があることの裏付けとなっている。
- 2 市場としては成立できなくても、市民ボランティアが仲介することにより、これを本としてもう一度流通させるルートを作り出すことができる。静岡市は、静岡版「もったいない運動」で雑紙の回収を重点取組としているが、古本リサイクルのルートが確立されれば、この取組にも効果が上がる。
- 3 本は内的な価値にかかわるものであるため、多くの読書家は蔵書を処分しなくてはならないとき、単なる「モノ」として古紙回収に回すのは忍びがたく、できれば他の読者に譲りたいと希望している。が、今は(1)のような状況でその手立てがない。市民・行政の協働で、新しい流通ルートができれば、静岡市に本を大切にする「シェア」の文化を根付かせられる。また、子ども読書推進計画にいう「子どもが自然に読書に親しめる、読書環境」づくりにも役立つ。
- 4 市立図書館は利用者からの寄贈を受け付ける際、静岡関係資料はすべて受け取るが、それ以外は「発行より2～3年以内のもの」「汚れていないもの」「雑誌・問題集・参考書以外のもの」というような制限を設けている。リサイクル市を共催することにより、このような規格外の寄贈書も受け取って処理できるようになる。「本のことは図書館に行けば何とかなる」という市民の信頼を強化できる。
- 5 リサイクル市に寄せられた図書の中には、図書館未所蔵の貴重書が混じっていることが、たまにある。エコワークでは受け入れ時にすべての本をチェックして、貴重書と思われるものは取りのけておき、県や市の図書館・アイセルやあざれあの図書室に寄贈してきた。図書館の資料収集に対しても貢献できる。
- 6 これまでリサイクル市に来た人の中には、明らかに今まで図書館利用者ではなかった層が含まれていた。したがって、図書館で開催することにより利用者層の拡大も見込まれる。

3. 協働にあたって提案団体が果たす役割及び行政に望むこと（市の役割）

* 市民 古本リサイクル市の実際の運営全般

事前のPR（チラシ作製・配布・マスコミへの働きかけなど）

本の運び込み・運び出し・会場設営

持ち込み本のチェック・押印・ごみの分別（ごみ同然のものを持ち込む人もいるので）

受付・利用者対応

後片付け（次回用ストック本の選別・残りは古紙回収に出す）

* 行政 会場の提供・事前PRへの協力

初日にある程度（2000～3000冊以上）の本がないと、来場者は好みの本に出会えないので、リサイクル市の魅力が大幅に低下してしまう。大量の本の保管・会場への移動は大変きついし、移動のための車の確保も難しい。古本の交換はすべて無料でやってきたため、費用の捻出はできない。倉庫や運搬車の提供・配送などは、ボランティアで行ってきた。

また、本はある程度分野別に分けておかないと探せないが、そのためには広い会場が必要となる。会場費も出せないなので、無料での使用を認めてもらえるところに限られる。

そうしたネックがあるので、現在は年3回開催するのが精いっぱい状況にある。だが、会場と運搬手段が確保できれば、もっと頻繁な開催も可能になる。ボランティアスタッフの募集も、行政との協働であるほうがやりやすいと思われる。

団体名：市民エコワーク

4. 成果目標（できる限り具体的に表現してください）

- 1 本が無駄に捨てられることなく、次の読者に手渡される機会をつくる
- 2 古紙や可燃ごみを減らす
- 3 本を読み捨てにするのではなく、大切に扱いシェアしあう文化を育てる
- 4 市場としては成立しえないリサイクルルートを、行政・市民協働で作る
- 5 図書館利用者の拡大
- 6 貴重書の救出・図書館蔵書への寄贈

5. 事業計画

- 1 5月にあざれあで古本市開催
- 2 9月に西部生涯学習センターで古本市開催
- 3 11月頃にアイセルで古本市開催
- 4 10月・12月・2月の土日に図書館で古本リサイクル市を開催

図書館と他の施設と交互に開催することにより、互いの施設の利用者も来ることが期待できる。

6. スケジュール

事業計画と同じ

7. 実施体制および主要スタッフの経歴

「市民エコワーク」は2002年に結成、メンバーは10名前後。同年よりアイセル21のラウンジを借り、毎年、古本リサイクル市を開催している。その後、西部生涯学習センター、あざれあなどからも要請があって、年3回の実施が恒例となっている。主要メンバーはこの間ずっと変わらず、経験を重ねてきている。

8. 特にアピールしたいこと（専門性、独自性、先駆性、実績など）

- 1 これまでのリサイクル市はいずれも大変好評で、利用も多く、市民に支持されている。
あざれあでの実施状況（別紙1参照） HPでも紹介されている。
- 2 来場者からは、「本のことなのに、なぜ図書館でやらないのか」とよく聞かれた。図書館に対する市民の期待がうかがえる。
- 3 他都市では、無料交換ではなく有料頒布にして、収益金で図書館に新刊本を寄贈している例もある。（別紙2参照） 公共施設での有料頒布が可能なら、将来はそうしたシステムも考えたい。

協働パイロット事業 (H25) 見積書

団体名： 市民エコワーク

企画のタイトル： 古本リサイクル市

項 目	金 額	説 明
運搬費	175,000 円	往復 3,500 円×5 回
PR 費	12,500 円	リソグラフ印刷 0.5 円×1,000 枚=500 円 カラーペーパー 1,000 枚 2,000 円 1 回 2,500 円×5 回=12,500 円
雑費	2,500 円	ポスター 会場設営用看板 文具など
小 計 A	190,000 円	
消費税 B=A×0.05	9,500 円	
合 計 A+B	199,500 円	

◎実費弁償契約の希望の有無

有

 無

※ 参加費の徴収、物品の販売、提案団体の自己負担等、委託料以外の財源がある場合

収入見込み額	金 額	主な用途

企画提案の概要書

提案団体名	市民エコワーク
企画案のタイトル	古本リサイクル市
提案の要旨 (企画提案書の概要を400字以内でご記入ください。)	<p>古本リサイクル市は、行政が場所を提供し、市民がスタッフとなって運営する本の交換市です。だれでも本を持ち込み、持ち帰ることができます。どちらか片方でもOKです。この方法で、古い本をごみに出したり古紙回収に回さず、必要としている人に届ける機会を提供します。</p> <p>古本市は、捨てるしかないと思える古い本にも価値を見出し、大切に扱う文化を育てます。市場にまかせては機能しない分野のリサイクルも、市民と行政が協働して行うことで可能になり、ごみの減量が進められます。</p> <p>図書館は会場となりことで、本と市民を結びつけ、必要な本を必要な人に届ける、という図書館の役割をより広くPRできます。</p>
金額	199,500円

《注意事項》

ホームページでの公開資料です。以下のことに注意してください。

- ・ 丸数字などの特殊記号は使わないようにしてください。
- ・ 図やイラスト、写真、動画、スライド等は掲載できません。
- ・ html で表現できない複雑な表現方法をご利用できません。